

蘇る備中櫓 (びっちゅうやぐら)



備中櫓二階「御上段」

備中櫓は、「森家先代実録」付図の「作州津山城本丸之図」に「上ノ櫓備中櫓ト云 城下ヨリ見ユル」と記載されているように、本丸から南に張り出した石垣上に建てられた櫓であり、城下からの景観も含め、城内で天守に次ぐシンボル性の高い建造物であったと推定されます。



在りし日の津山城

さらに備中櫓はその内部構造も独特のものでした。

奥向御殿の更に奥という場所に位置し、なおかつ御殿の一部として機能していたため、内部は御殿建築の仕上げとなっています。



備中櫓絵図 文化5 (1808) 年

このことから、備中櫓が藩主あるいはその家族という限られた人物のための空間であったことが推定されます。

そのため通常の櫓では希な全室畳敷、天井張りという構造で、絵図によると「御座之間」、「御茶席」、「御上段」等の全国的にも類例の余り見られない特別な空間が存在していました。

このように景観的にシンボル性が高く、内部は限りなく御殿建築であるというこの櫓を復元することにより、築城当時の津山城の建造物の様子を体感してもらうことが可能となります。

そのため、慶長9 (1604) 年に森忠政が津山城の築城を開始してから400年目の節目である平成16 (2004) 年、備中櫓の復元整備が行われたのです。

アクセス



JR津山駅から 北へ徒歩 10分
中国自動車道 津山又は院庄ICから自動車で 15分

津山市までのアクセス

自動車でのアクセス

中国自動車道 (津山IC / 院庄IC) 大阪から約2時間
主要国道
・R53 (岡山から約1時間30分)
・R53 (鳥取から約1時間30分)
・R179、R181、R429 他

列車でのアクセス

JR 津山駅
・津山線 (岡山ー津山) 約1時間30分
約1時間 (快速)

ハイウェイバス
・大阪駅ー津山駅 約2時間30分～3時間

見学案内

史跡津山城跡 (鶴山公園) 利用案内

	個人利用		団体利用
入園料	大人（高校生以上）310円		責任者の引率する 30 名以上の団体は 240円
	小人（中学生以下）無 料		
開園時間	4 月	さくらまつり期間中	7 時 30 分～22 時
		さくらまつり期間以外	8 時 40 分～19 時
	5 月～9 月		8 時 40 分～19 時
	10 月～3 月		8 時 40 分～17 時
備 中 櫓 入館時間	さくらまつり期間中		9 時～18 時30 分
	さくらまつり期間以外		9 時～16 時30 分
休園日	12 月 29 ～ 31 日		

※ペット等の持ち込みはご遠慮ください。

〈問合せ先〉津山城 (鶴山公園) ☎0868-22-4572
(公社)津山市観光協会 ☎0868-22-3310
監修 津山市

史跡
津山城跡
(鶴山公園)



備中櫓

(公社)津山市観光協会
監修 津山市

津山城の沿革

森忠政と津山城築城

慶長8(1603)年、美作一国18万6千5百石の国持ち大名となった森忠政は、吉井川と宮川の合流点を見おろす小高い「鶴山」を城地と決定し、翌慶長9(1604)年「鶴山」を「津山」と改めて城と城下町の建設を開始しました。

途中、江戸城や駿府城普請、大坂の陣への出陣などに多くの年月を費やされましたが、足かけ13年を経て元和2(1616)年によりやく築城工事は終了したのです。

津山城の城郭構成

津山城は、吉井川と宮川の合流点を望む小高い山を利用して築かれています。山頂を削って本丸とし、本丸を囲むように二ノ丸・三ノ丸が配置されています。麓には重臣の屋敷を配し、城下町との間を画する堀で囲んでいます。堀には6ヶ所の門が設けられており、城下町の中心となる京町に面する京橋門を大手としています。

本丸と二の丸には御殿が置かれ、建造物は本丸 31・二の丸 12・三の丸 17 棟が配置され、門は本丸 15・二の丸 7・三の丸 11 棟の門が存在しました。比較的小コンパクトな面積の中に、これらの建造物群がひしめき合っている様は壮観であったと思われます。

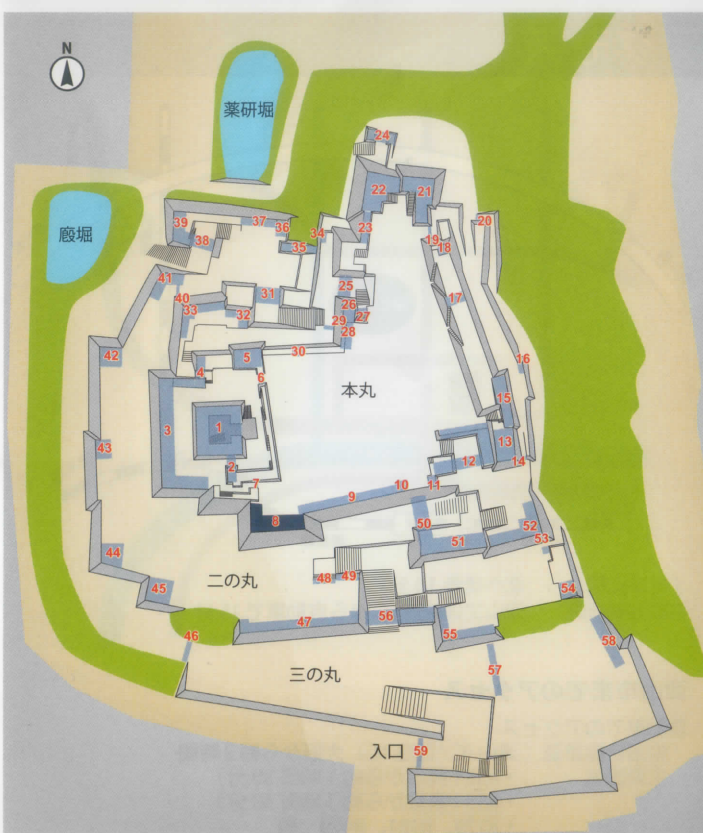
津山城の城主

森氏は初代の忠政から4代続きましたが、元禄10(1697)年、4代藩主長成の跡継ぎを立てられずに領地没収となり、翌元禄11年には松平宣富が美作10万石を領し津山城主となりました。その後松平氏は慶倫まで9代続き明治維新を迎えたのです。

津山城廃城と鶴山公園

江戸時代の終焉と共にその役目を終えた津山城は明治6(1873)年には取り壊しが決まり、明治7年から明治8年にかけて石垣を残して全ての建物が解体され払い下げられました。

その後津山城跡は県有地となり、明治32(1899)年には公園にするという条件で津山町に払い下げられました。翌年から城跡の公園化が進められ、当時の津山町議会議員(後の津山市議会議員)福井純一らの尽力により、昭和3(1928)年頃までには城跡全体が桜で覆われる現在の姿となったといわれています。



津山城の建造物

津山城には現在建造物は残っていませんが、かつては数多くの櫓や門が存在していました。その中の主なものは下記のとおりです。櫓や門の名称は文献により異同がありますが、現在の最も一般的な名称を挙げています。

1 天守	2 六番門	3 多門櫓	4 七番門
5 長櫓	6 八番門	7 五番門	8 備中櫓
9 長局	10 到来櫓	11 使者櫓	12 表鉄門
13 包(鼓)櫓	14 十四番門	15 太鼓櫓	16 瓦櫓
17 矢切櫓	18 月見櫓	19 十一番門	20 十二番門
21 栗積櫓	22 大戸櫓	23 長屋櫓	24 桜門
25 裏鉄門	26 腰巻櫓	27 埋門(裏切手門)	28 七間廊下
29 十三番門	30 涼櫓	31 裏中門	32 小姓櫓
33 色付櫓	34 麦(書)櫓	35 荒和布櫓	36 道明寺櫓
37 干飯櫓	38 裏下門	39 紙櫓	40 格子門
41 肘櫓	42 白土櫓	43 塩櫓	44 昇櫓
45 長柄櫓	46 十八番門	47 鉄砲櫓	48 四足門
49 走櫓	50 切手門	51 弓櫓	52 辰巳櫓
53 十六番門	54 玉櫓	55 見付櫓	56 表中門
57 長屋門	58 火縄蔵	59 冠木門	

歴代藩主一覧

森家	初代	1603～	森 忠政
	第2代	1634～	森 長継
	第3代	1674～	森 長武
	第4代	1686～1697	森 長成
松平家	初代	1698～	松平宣富
	第2代	1721～	松平浅五郎
	第3代	1726～	松平長熙
	第4代	1735～	松平長孝
	第5代	1762～	松平康哉
	第6代	1794～	松平康义
	第7代	1805～	松平齐孝
	第8代	1831～	松平齐民
	第9代	1855～1869	松平慶倫

